



STARS

ON



永遠の星に見守られて、新たな旅立ちへ。

相馬村閉村記念誌

MANY

AMENITIES



村 章

本村の特産物であるヒバの実を縦に割った形に稲の穂を配し、農山村である相馬村の飛躍を表現したものです。

村の花



福寿草 (ふくじゅそう：キンポウゲ科)
山地に自生する多年草で、開花期は3月頃。
葉に先立って黄色の花が咲く。葉は羽状複
葉でニンジン葉に似ている。

村の鳥



郭公 (かっこう：カッコウ科)
夏、日本にやってくる渡り鳥。ほぼ灰褐色で、
腹は白地に細い横斑がある。明るい林に棲み、
「カッコウ」という声はおなじみ。

村の木



桂 (かつら：カツラ科)
日本特産の落葉高木。樹皮は灰色を帯び、
20メートル以上の高さに成長する。雌雄異
株で、春先、葉に先立って紅色の花を開く。



永遠の星に見守られて、新たな旅立ちへ。



目 次

3 村の概要

4 村長あいさつ

5 相馬村のあゆみ

「幾星霜」

15 村政歴代の担い手

歴代村長

歴代議長／平成16年 村議会議員

17 村勢の変遷

19 思ひ出の学び舎

21 相馬村、農業116年の歴史

① 林業と製炭

②-1 りんご栽培の歩み

②-2 りんご生産量

②-3 自然災害

③ 稲作

④ 花卉・野菜

27 相馬村人物紹介

国会議員

名誉村民

オリンピック選手

29 相馬村16地区紹介

「相馬に輝く16の星」

湯口地区 31

昂地区 33

安田地区 35

黒滝地区 37

五所地区 39

水木在家地区 41

紙漉沢地区 43

坂市地区 45

藤沢地区 47

相馬地区 49

前相馬地区 51

桐ノ木沢地区 53

山田地区 55

大助地区 57

藍内地区 59

沢田地区 61

63 青森県相馬会47年のあゆみ

66 村民アルバム

「村民がとらえた相馬村の姿」

写真

絵画

小学生・絵画

俳句



村の概要

相馬村は津軽平野の西南隅にあり、東は北流する棚内川附近で弘前市と、北は東流の岩木川をへだてて岩木町、西は連続する丘陵地で西目屋村、南は白神山地の峰々を境に秋田県に接しています。東西8km、南北13kmのほぼ長方形で、総面積は103.54km²、北は岩木川をへだてて岩木山に接し、西と南の広い地域が白神山地に属しています。南の峰に発する相馬・作沢・棚内の諸川と岩木川の流域の平坦部には水田が開け、山麓・丘陵地帯はりんご園、高地は森林で構成されています。

総面積の8割が山林で、農用地は1割、総世帯数1,098戸のうち5割が農家という農山村です。16の行政区は、ほぼ河川沿いに走る道路に沿って形成されており、人口は昭和35年の5,701人を頂点に減少し、平成16年では3,947人となっています。

気象は温暖な夏期と積雪寒冷の冬期に大きく分かれ、冬期の残雪期間が長く12月中旬から4月上旬まで、累積積雪量は4m前後ですが、年差に隔たりがあります。夏期の5～9月は晴天の日が多く、この期間の平均気温は19℃で、県内では暖かい地域であり、農作物の生育に適しています。

生活・経済の拠点都市は隣接の弘前市で、弘前への公共交通機関として平日9往復の路線バスが運行しております。村の中心部からJR弘前駅まで10km、車で20分ほどです。人口の少ない村ですが、北に津軽富士岩木山を望み、弘前市に隣接した都市近郊から白神山地の深山幽谷まで、多様多彩な地域景観をもっています。

村長あいさつ

平成元年、村制施行百周年式典が、星と森のロマンピアを主会場として盛大に執り行われ、21世紀へ向け更なる飛躍を誓い合った、あの日、あの時から過ぎし16年、相馬村が今日まで経験したことのない、市町村合併に一抹の不安を抱えながらも、その道を選択いたしました。

村の将来を見据え、地域の継続的发展に向け、小さいながらもキラリと輝く村づくりに、村民の御協力を得ながら進めてきたところですが、国と地方の役割分担を見直し、地方分権、行政ニーズの多様化、自己責任、自己決定、少子高齢化社会、特に厳しい財政状況等、地方を取り巻く環境が大きく変化しています。

平成16年7月、津軽南地域市町村合併法定協議会が8ヶ月で白紙、解散となりました。その後、新たな枠組みでの合併が進み、小異を大切に大同につくという理念もさることながら、その基本は、地域社会がどのように繁栄していけるかに尽きるかと思います。

国は、地方分権と財政改革(三位一体)を進めておりますが、まだ道半ばであり、地方自治体の財政状況が深刻さを増して行くことでしょう。今後それを乗り越えられる知恵が求められます。幸いにしてこの地域は、豊かな自然環境に恵まれ、特に森林資源は、国土の保全、地球温暖化防止、水源の涵養等、多面的な機能を有し、将来において限られた資源の有効活用が望まれます。

相馬村は明治22年誕生以来116年、先人達の築いた多くの遺産が今日の繁栄をもたらしました。昭和57年、歴史を綴る相馬村誌が5名の編さん委員と2名の事務局により刊行されました。今回は、その続編には優るものではありませんが、相馬村閉村記念誌として、その変遷を再認識し、「相馬村」という村名が変わっても、住民、行政が一体となり、創意工夫しながら、産業、文化、福祉、教育など調和を図り、やさしさとふれあいのある新しい地域であるよう祈念します。

明日に向かう人々に故郷を愛し、集落を思い、未来に夢を託し再出発。





幾星霜

星は一年かけて天を一周し、
霜は年ごとに降る…

幾つもの星霜を経て物語が生まれ
幾つもの星霜を経て今日に至る

百十六年の幾星霜…





相馬村のあゆみ



1889 → 2005

米軍撮影の空中写真(昭和27年撮影)



村制施行まで

平安・鎌倉・南北朝・室町・
安土桃山・江戸・明治

807→1888

807【大同二年】

坂上田村麻呂、相馬村の女尊を討ち、
石戸権現を建立したといわれる。(石戸神社の起源)

1334【建武元年】

鎌倉幕府の残党、津軽に拠る。
官軍が大光寺・石川・持寄諸城を攻め落とす。

1366【正平二十二年】

長慶天皇、吉野の住吉殿で即位。

1383【弘和二年】

長慶天皇退位、御弟後龜山天皇即位。

1385【元亨二年】

長慶上皇、紙漣館に入る。

1394【応永元年】

長慶上皇崩御。

1573【天正元年】

紙漣沢に弘田養徳が寺子屋を開く。

1600【慶長五年】

紙漣沢の成田左衛門次郎、
関ヶ原の合戦に出陣して戦功をあげる。

1615【元和元年】

湯口の梅林寺、西茂森町に移転。

1797【寛政九年】

菅江真澄、村市・高森を経て小倉(沢田)を訪ねる。

1853【嘉永六年】

相馬村に漆苗を二、〇〇〇本植付ける。

1875【明治八年】

石堂小学開校。

村制施行から
昭和中期まで

明治・大正・昭和

1889→1958

1889【明治二十二年】

相馬村制を施行。

1900【明治三十三年】

湯口・目屋小林区署が開設。

1901【明治三十四年】

五所に相馬郵便局開局。

1910【明治四十三年】

相馬村農会主催、第一回相馬村立毛品評会開催。

沢田に冬期季節分教場開設、沢田分校の前身となる。

1914【大正三年】

相馬村信用購買組合発足。

1915【大正四年】

相馬村青年団創設。

1919【大正八年】

相馬字山田に大火、二十戸焼失。

1924【大正十三年】

紙漣沢水力発電所竣工。

1926【大正十五年】

長慶天皇の御在位を勅命をもって認定。



大正8年3月相馬字山田で大火



紙漣沢尋常小学校卒業写真(大正2年)



明治22年町村施行開始による新町村分合名



明治28年発行の村制註釈書



村制施行後の相馬村誌

国内の動き

明治・大正・昭和

1875→1959

1875【明治八年】

江華島事件おこる。

1876【明治九年】

日朝修好条約が結ばれる。

1894【明治二十七年】

日清戦争始まる。

1904【明治三十七年】

日露戦争始まる。

1914【大正三年】

第一次世界大戦に参戦する。

1915【大正四年】

中国に「二十一条」の要求を出す。

芥川龍之介の「羅生門」が刊行される。

1923【大正十一年】

関東大震災がおこる。

1925【大正十四年】

東京放送局がラジオ放送を開始する。

1931【昭和六年】

満州事変がおこる。

1932【昭和七年】

五・一五事件がおこり、大義首相が暗殺される。

明治

1876【明治九年】

相馬小学・紙漉沢小学開校。

1888【明治二十一年】

紙漉沢竜田神社山頂の埋込地、
長慶天皇御陵墓伝説参考地に指定。



主要食糧増産のためのりんご園を畑地に転換



昭和10年頃の舟打鉾山(日本曹達株式会社所有)



昭和32年に創刊された「広報そうま」

昭和

1929【昭和四年】

日本曹達(株)、舟打鉾山の権利を獲得。

1931【昭和六年】

石堂・紙漉沢の両尋常小学校を統合し、
五所に相馬第一尋常小学校を開校。

1933【昭和八年】

村行政区に舟打を加える。

1938【昭和十二年】

相馬第二尋常小学校舟打鉾山分教場開設。

1943【昭和十八年】

りんご園耕作轉換令が出る。

1947【昭和二十二年】

新制中学校発足、五所・相馬・舟打鉾山の
三中学校が各小学校内に開設。

地方自治法により十五行政区に区分。
村農業会が解散し、五つの農業協同組合設立。

1949【昭和二十四年】

五所・相馬中学校合併、相馬中学校とし、
紙漉沢に独立校舎を建設。

1952【昭和二十七年】

相馬村森林組合設立。

1957【昭和三十一年】

村連合青年団復活。
広報「そうま」発刊。

1958【昭和三十三年】

集中豪雨で岩木川氾濫。
台風で土淵川氾濫、家屋と耕地に被害。



相馬村役場の落成式(昭和初期)



海兵検査で相馬村最高の合格率(昭和19年)



中学2年用の数学教科書(昭和26年)



りんごの収穫作業(昭和30年代)

昭和

1936【昭和十一年】

二・二六事件がおこる。

1937【昭和十二年】

日中戦争が始まる。

1941【昭和十六年】

太平洋戦争始まる。

1945【昭和二十年】

広島・長崎に原子爆弾が投下される。
ポツダム宣言を受諾し、無条件降伏。

1946【昭和二十一年】

日本国憲法公布。

1949【昭和二十四年】

湯川秀樹博士がノーベル物理学賞受賞。

1953【昭和二十八年】

NHKテレビ放送が始まる。

1954【昭和二十九年】

台風十五号襲来。青函連絡船洞爺丸沈没。

1955【昭和三十年】

初のアルミ硬貨(一円)発行。
第一回原水爆禁止世界大会。

1957【昭和三十一年】

南極観測隊、昭和基地を設営。
百円硬貨発行。

1958【昭和三十三年】

一万円札発行。
東京タワー完工式。

1959【昭和三十四年】

皇太子(現天皇陛下)と
正田美智子妃ご成婚。



昭和45年頃の農業協同組合



「上皇宮」と改名された紙漉沢
竜田神社



五所地区に新築された相馬村国保診療所落成式(昭和37年)

昭和

昭和中期から 昭和後期へ

昭和

1961→1979

1961【昭和三十六年】

りんご共同防除組合設立。
スピードスプレーヤーが村に初登場。

1962【昭和三十七年】

舟打鉾山閉山。
相馬中学校新校舎落成。
国保診療所が五所に新築。

1964【昭和三十九年】

相馬村農業協同組合誕生。
相馬・五所保育所開設。
湯口山に嶽開発(有)砕石工場できる。

1966【昭和四十一年】

紙漉沢竜田神社、「上皇宮」に改名。
相馬村役場新庁舎竣工。

1967【昭和四十二年】

東京「相馬会」、十周年を記念し両親らの招待旅行会を実施。

1968【昭和四十三年】

一丁木に簡易郵便局開局。
藍内分校閉校し、相馬小学校に統合。

1970【昭和四十五年】

相馬中学校スキー部、県中学校体育大会で二部総合優勝。
相馬村が過疎地域振興法の指定地となる。



相馬村役場新庁舎竣工(昭和41年)



舟打鉾山閉山により、鉾山を離れる人々



村内初、スピードスプレーヤーの導入(昭和36年)

昭和

国内の動き

昭和

1960→1979

1960【昭和三十五年】

カラーテレビ放送が始まる。

1962【昭和三十七年】

厚生省、コレラ流行防止のため台湾バナナを
輸入禁止に。

1963【昭和三十八年】

日米間テレビ宇宙中継に成功。

1964【昭和三十九年】

東海道新幹線開業。
東京オリンピック大会開幕。

1966【昭和四十一年】

全日空ボーイング727型機、東京湾に墜落、
133人全員死亡。
国民祝日法改正公布。

1967【昭和四十二年】

自動車保有台数一千万突破。

1968【昭和四十三年】

川端康成がノーベル文学賞受賞。

1970【昭和四十五年】

大阪で日本万国博覧会開催。
日航機よど号、赤軍派学生にハイジャック
される。



温泉源の掘削に成功、完成した御所温泉（昭和54年）



峰越連絡林道田代相馬線開通（昭和53年）



集中豪雨で川が氾濫した山田地区（昭和50年）



昭和48年に完成した総合開発センター

昭和

1971【昭和四十六年】
東北ポリマー（株）、紙漉沢に進出。

1972【昭和四十七年】
村宮桜井スキー場用地購入。
五年間にわたる県圃場整備事業完了。

1973【昭和四十八年】
相馬村総合開発センター新築落成。

1974【昭和四十九年】
相馬村商工会発足。

1975【昭和五十年】
県教委、紙漉沢白山堂遺跡を発掘調査。
津軽地方に集中豪雨、被害総額八億五、四四万円。

1976【昭和五十一年】
台風でりんご落果、被害は二二三万箱。
相馬中学校スキー部、県大会男子の部で総合優勝。

1977【昭和五十一年】
集中豪雨で家屋の被害、二九四万円、耕地の被害一億四、八〇〇万円。
相馬・五所小学校を統合、相馬小学校が新築落成。
相馬村僻地保健福祉館竣工。

1978【昭和五十三年】
峰越連絡林道田代相馬線開通。
沢田に生活改善センター竣工。
庁舎に接続して議会議事堂竣工。

1979【昭和五十四年】
昭和五十・五十二年の水害復旧工事完成。
温泉源の掘削成功。
相馬村保健センター、御所温泉二連の建築竣工。



昭和53年に完成した議会議事堂にて



国際ホルメンコーレンスキー距離競技大会の沢田和之選手（昭和51年）



紙漉沢に進出した東北ポリマー株式会社（昭和46年）

昭和

1971【昭和四十六年】
沖縄返還協定調印。
岩手県上空で自衛隊機が全日空機に追突、惨事となる。

1972【昭和四十七年】
札幌オリンピック冬季大会開幕。
沖縄県本土復帰。

1973【昭和四十八年】
江崎玲於奈がノーベル物理学賞受賞。
第一次石油危機はじまる。

1974【昭和四十九年】
佐藤栄作がノーベル平和賞受賞。

1975【昭和五十年】
沖縄国際海洋博覧会開催。

1976【昭和五十一年】
鹿児島で初の五つ子誕生。
ロッキード事件がおこる。

1977【昭和五十一年】
王貞治、756本塁打を記録、国民栄誉賞第一号受賞。
あすなる国体が青森県で開催。

1978【昭和五十三年】
日中平和友好条約調印。

1979【昭和五十四年】
世界最長の「上越新幹線清水トンネル」貫通。
東京サミット開催。



昭和58年から発行された村民カレンダー



五所地区に建てられた多目的研修集会施設「長慶閣」



夜間照明つき五所運動広場完成(昭和55年)

昭和

1980【昭和五十五年】

相馬村地籍調査が十三年かけて完了。
夜間照明つき五所運動広場完成。

1981【昭和五十六年】

青森県初のソーラーシステム付村営住宅二棟竣工。
農業後継者対策基金条例で八組認定。
全国優良町村として表彰される。

1982【昭和五十七年】

舟打鉾山跡地にキャンプ場完成。
県内初の県税完納二十五年連続達成で表彰される。
湯口支会が「ご無袋栽培」で農林水産大臣賞受賞。

1983【昭和五十八年】

交通死亡事故ゼロ三、〇〇〇日を達成。
多目的研修集会施設「長慶閣」竣工。

1984【昭和五十九年】

誘致企業の関ファッションが湯口で創業開始。
利雪創造センター竣工。

1986【昭和六十一年】

保健事業推進で厚生大臣賞受賞。

1987【昭和六十二年】

高度集団連、日本農業賞銀賞受賞。



相馬村初の誘致企業、関ファッションズアオモリ相馬工場



舟打鉾山跡地に設けられた村営キャンプ場



青森県初、ソーラーシステムの村営住宅

昭和

1980【昭和五十五年】

冷夏のため水稲大不作。

1981【昭和五十六年】

中国残留孤児を厚生省が招待、
初めて正式来日する。

1982【昭和五十七年】

東北新幹線開業(大宮―盛岡)。
国鉄のリニアモーターカー、
有人浮上走行実験で世界初成功。

1983【昭和五十八年】

日本海中部地震がおこる。
三宅島大噴火。

1985【昭和六十年】

科学万博つくば85開幕。
日航ジャンボ機墜落事故。

1986【昭和六十一年】

東京サミット開催。
土井たか子、社会党委員長に選出。

1987【昭和六十二年】

国鉄分割、JRグループ発足。

昭和から 平成へ

昭和・平成
1980→1994

国内の動き

昭和・平成
1980→1994



ロマンシアそま「森林科学館・野外ステージ」完成(平成6年)



湯口下水処理場の通水式(平成2年)



村制施行百周年記念モニュメント(平成元年)

平成

1988【昭和六十二年】
天体観測施設と湯口浄化センター起工。

1989【平成元年】
村制施行百周年記念式典を行なう。
紙漉沢地区水洗化を開始。
湯口支会がりんごで二回目の農林水産大臣賞受賞。

1990【平成二年】
相馬ダムで定礎修祓式を行なう。
湯口浄化センター、一丁木下水処理施設で通水式を行なう。
交通死亡事故ゼロ五、五〇〇日達成。
台風十九号により浸水など一億九、〇〇〇万円余の被害。

1991【平成三年】
村営桜井スキー場からロマンシアスキー場と改称し、ペアリフトを整備。
第三回あおもり活性化大賞で演劇祭そまがロマン賞を受賞。
名誉村民第一号に山田信男氏が受章。
水屋橋竣工。
そま炉辺懇談会が農林水産大臣賞受賞。
台風十九号によりりんご落果など三十六億円の被害。
交通死亡事故ゼロ六、〇〇〇日達成、県下第一位となる。

1992【平成四年】
村集団連、設立二十周年。
水道自動検針システム稼働開始。

1993【平成五年】
乙女橋竣工。
星と森のロマンシアそまに温泉湧出。
早稲田大学学生との交流開始。
藍内地区下水道処理場竣工。

1994【平成六年】
星と森のロマンシアそまに森林科学館・野外ステージ竣工。



早稲田大学学生との交流



台風19号により壊滅的被害を受けたりんご園(平成3年)



ペアリフトを整備したロマンシアスキー場(平成3年)

平成

1988【昭和六十二年】
青函トンネル鉄道開業、青函連絡船終幕。
本州と四国を結ぶ瀬戸大橋開通。
日米経済摩擦による牛肉、オレンジ自由化へ。

1989【昭和六十四年】
昭和天皇崩御。

1989【平成元年】
大型間接税の消費税が始まる。

1991【平成三年】
スパイクタイヤ使用禁止。

1992【平成四年】
貴花田が史上最年少優勝。
全国初のミニ新幹線「山形新幹線」開業。

1993【平成五年】
釧路沖地震がおこる。
皇太子と小和田雅子妃ご成婚。
北海道南西沖地震がおこる。
白神山地世界自然遺産に登録。

1994【平成六年】
全国各地で記録的な猛暑・水不足が深刻化。
中華航空機が名古屋空港で着陸に失敗、炎上、264人死亡。
日本人初の女性宇宙飛行士・向井千秋さん、宇宙へ。
大江健三郎がノーベル文学受賞。



バス路線藍内線開通（平成8年）



村営温泉を利用したエビの養殖



平成7年に販売開始された
村特産日本酒「森の宵・星の宵」

平 成

現在へ

平 成
1995→2005

1995【平成七年】

星と森のロマンピアそうま「星の宿・白鳥座」竣工。
星と森のロマンピアそうままで第四十六回青森県植樹祭開催。
村特産日本酒「森の宵・星の宵」販売開始。

1996【平成八年】

バス路線「藍内線」、「ロマンピア線」開通。
老人福祉施設「長慶苑」開所。
安田地区宅地分譲開始・完売。
エビ等養殖施設竣工。

1997【平成九年】

相馬中学校で和紙漉き開始。
コンピューターによる住民情報システム処理稼働。
大雨により九、〇〇〇万円余の被害。
満百歳の長寿者を顕彰。
相馬小学校創立二十周年・相馬中学校創立五十周年。
人口高齢化率が二〇％超。
りんご価格大暴落。

1998【平成十年】

村内十六番目の地区「昂地区」発足。
津軽広域連合設立。
沢田地区小規模排水処理場竣工。
水稲共同育苗施設着工。
つがるロマン作付開始。



平成10年度「手づくり郷土賞」で建設大臣賞を受賞した昂地区



左・相馬中学校50周年記念誌
右・相馬小学校20周年記念誌



ロマンピアそうま「星の宿・白鳥座」

平 成

国内の動き

平 成
1995→2005

1995【平成七年】

阪神淡路大震災がおこる。
東京地下鉄サリン事件がおこる。

1996【平成八年】

病原性大腸菌「O157」による食中毒が
堺市をはじめ全国各地で発生。
ペルーの日本大使公邸で人質事件がおこる。

1997【平成九年】

消費税率を5％に引き上げ。
神戸市須磨区の児童殺傷事件で14歳の
少年逮捕。
日本サッカー、悲願のW杯への出場決める。

1998【平成十年】

長野オリンピック冬季大会開幕。
若乃花連覇で史上初の兄弟横綱誕生。
和歌山でカレーにヒ素が混入される事件が
発生、4人が死亡、63人が病院で手当をうける。
第18回参議院選挙で自民党大敗、
小沢内閣が誕生。



沢田地区に完成した相馬ダム(貯水量約600万立方メートル)



相馬中学校新校舎落成(平成14年)



グリーン・ツーリズム「花き栽培体験」

平成

1999【平成十一年】
昂農園開設。

相馬村稲作生産組合「ライスロマンクラブ」設立。

相馬中学校新体育館落成。

2000【平成十二年】

資源ごみ分別収集開始。

紙漉沢りんご支会がりんご立木品評会で農林水産大臣賞受賞。

相馬村わい化栽培研究会が県わい化栽培技術協議会で第一席受賞。

相馬村稲作生産組合「ライスロマンクラブ」が青森県農業賞受賞。

2001【平成十三年】

第六回グリーン・ツーリズム・ドライブ・スタンプ・ミタイン・グ・T・G・F・M青森相馬村大会開催。

一ノ下り山遺跡発掘調査。

2002【平成十四年】

相馬中学校新校舎落成。

情報公開・個人情報保護審査会設置。

津軽南地域任意合併協議会参加。

相馬バイパス開通。

2003【平成十五年】

津軽南地域合併法定協議会参加。

相馬ダム竣工。

台風十四号により、りんご落果など三億円余りの被害。

2004【平成十六年】

津軽南地域合併法定協議会解散。

弘前・岩木・相馬市町村合併協議会発足。

相馬村稲作生産組合「ライスロマンクラブ」田中稔賞受賞。

暴風雨などにより、りんご落果被害。

名誉村民第二号に山内一義氏が受章。

2005【平成十七年】

弘前・岩木・相馬市町村合併協議会において合併調印。

(新市名「弘前市」、合併期日「平成十八年二月二十七日」)



相馬バイパス開通(平成14年)



りんご農家を視察するりんごわい化研究会



一ノ下り山遺跡発掘調査(平成13年)



良品質・良食味米の生産を目指して活動する「ライスロマンクラブ」

平成

1999【平成十一年】

臓器移植法に基づく初めての脳死移植が実施される。

東海村で国内初の臨界事故発生。

2000【平成十二年】

小淵首相が病に倒れ森連立内閣発足。

沖縄サミット開催。

三宅島噴火で全島民避難。

白川英樹博士がノーベル化学賞受賞。

2001【平成十三年】

小泉内閣発足。

国内で初の狂牛病確認。

雅子様女児出産。

2002【平成十四年】

サッカーW杯日韓共同開催、日本は決勝トーナメント進出。

初の日朝首脳会談、

その後拉致被害者が24年ぶりに帰国。

ノーベル賞で日本初のダブル受賞。

2003【平成十五年】

阪神タイガース18年ぶりのリーグ優勝。

10年ぶり冷夏で米や季節商品に影響。

衆議院選挙で民主党が躍進、2大政党化進む。

2004【平成十六年】

日本国内で79年ぶりとなる

鳥インフルエンザ発生。

イラク復興支援のため陸上自衛隊本隊派遣。

新潟県中越地震がおこる。

2005【平成十七年】

日本初のリニアモーターカーの旅客線、

「リニエ」が愛知県で開業。



初代 生駒慶宮
明治22.7～明治23.9



2～6代 中澤清十郎
明治23.9～明治43.7



7代 宇庭愛世
明治43.8～大正3.7



8～10代 澤田平作
大正3.7～大正15.6



11代 山内勝美
大正15.6～昭和2.10



12代 成田重雄
昭和2.10～昭和5.11



13代・18～20代 宮川正久
昭和5.11～昭和10.2
昭和24.12～昭和34.10



14～16代 溝江信正
昭和10.2～昭和21.11



17代 中澤清吉
昭和22.4～昭和24.11



21～24代 溝江頭一
昭和34.11～昭和50.11



25～26代 種澤武美
昭和50.11～昭和58.11



27～31代 山内一義
昭和58.11～平成15.11



32代 山内良衛
平成15.11～在職中

歴代議長

All The Past Chairpersons



初代 山内豊作
昭和22.5～昭和26.4



2代 三上幸太郎
昭和26.5～昭和28.4



3代 三上俊雄
昭和28.4～昭和30.5



4代 田中栄太郎
昭和30.5～昭和34.5



5代・9代 白浜卯十郎
昭和34.5～昭和36.5
昭和40.5～昭和40.11



6代 成田直吉
昭和36.5～昭和38.5



7代 三上義雄
昭和38.5～昭和38.7



8代・11～12代 澤田徹英
昭和38.7～昭和40.4
昭和42.5～昭和49.3



10代 今 政一
昭和40.11～昭和42.4



13代 山内石太郎
昭和49.3～昭和50.4



14代 田中 重
昭和50.5～昭和54.4



15代 山内一義
昭和54.5～昭和56.4



16代 三上隆雄
昭和56.4～昭和58.4



17代 溝江修一
昭和58.5～昭和62.4



18代 山内良衛
昭和62.5～平成3.4



19代 嶋口正美
平成3.5～平成7.4



20代 山崎隆穂
平成7.5～平成11.4



21代 平井義美
平成11.5～平成15.4



22代 清野一榮
平成15.5～在職中



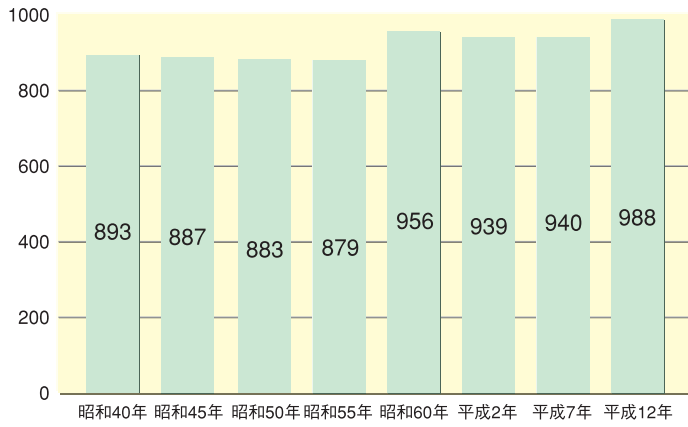
平成16年 村議会議員

2004 Member of a Village Assembly

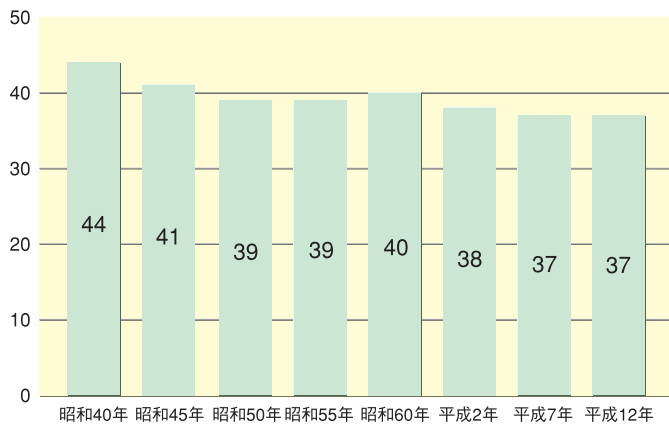
後列左から 三上直樹、種澤武美、溝江吉仁、成田功一、宮川克己
前列左から 嶋口正美、栗形昭一、清野一榮、三上俊一、藤田鉄芳、山崎隆穂
工藤彰一(右上)

世帯数（単位：世帯）

資料：国勢調査

人口密度（単位：人／km²）

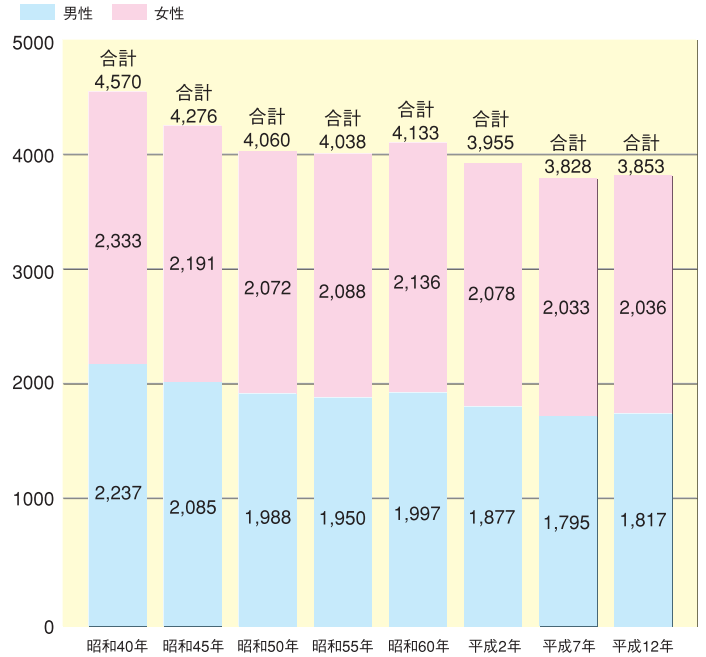
資料：国勢調査



相馬村 村勢の変遷

人口（単位：人）

資料：国勢調査



地区別世帯数（単位：人）

資料：住民基本台帳

年度(平成)	2	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
湯口	158	154	154	156	154	158	159	161	160	160	161
昂	—	—	—	—	41	60	67	70	80	87	93
安田	50	52	49	51	48	53	52	49	53	53	52
黒滝	81	83	84	83	86	89	90	88	90	91	90
五所	121	125	128	128	129	130	131	136	138	135	138
水木在家	69	69	68	72	71	70	68	67	68	67	67
紙漉沢	145	144	143	144	144	141	142	139	137	138	142
坂市	55	56	56	83	82	82	82	83	83	83	82
藤沢	47	44	45	43	43	44	43	43	41	41	43
相馬	56	56	56	57	57	57	57	56	56	57	59
前相馬	31	30	30	30	30	30	31	31	33	32	32
桐ノ木沢	29	28	28	28	27	27	27	27	27	26	26
山田	37	38	38	38	39	39	40	40	37	36	35
大助	38	39	39	39	38	38	38	38	38	38	38
藍内	29	29	29	29	29	28	28	28	28	28	28
沢田	19	18	18	16	15	15	15	14	14	13	13
計	965	965	965	997	1,033	1,061	1,070	1,070	1,083	1,085	1,099

地区別人口（単位：人）

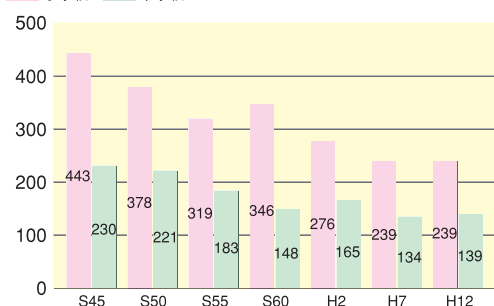
資料：住民基本台帳

年度(平成)	2	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
湯口	685	665	669	672	658	656	645	647	640	648	649
昂	—	—	—	—	133	197	221	243	267	295	310
安田	173	171	151	160	146	157	151	145	148	140	135
黒滝	340	316	316	313	315	322	324	315	323	317	310
五所	509	518	527	531	528	532	530	532	519	517	512
水木在家	285	272	271	280	283	280	277	264	262	258	251
紙漉沢	598	581	575	569	557	540	543	543	537	548	543
坂市	226	210	214	246	249	244	241	236	237	235	233
藤沢	193	180	186	176	174	174	172	172	171	169	174
相馬	230	221	224	219	210	202	201	196	201	193	194
前相馬	138	124	114	113	112	108	110	109	110	109	108
桐ノ木沢	138	130	137	134	131	131	127	130	128	128	122
山田	168	141	146	145	139	141	142	142	135	136	135
大助	160	163	162	156	156	158	154	158	155	159	163
藍内	108	100	99	97	94	87	87	84	83	82	81
沢田	65	60	59	59	53	40	39	39	41	39	40
計	4,016	3,852	3,850	3,870	3,938	3,969	3,964	3,955	3,957	3,973	3,960

児童数・生徒数の推移（単位：人）

資料：学校基本調査

小学校 中学校



人口動態（単位：人）

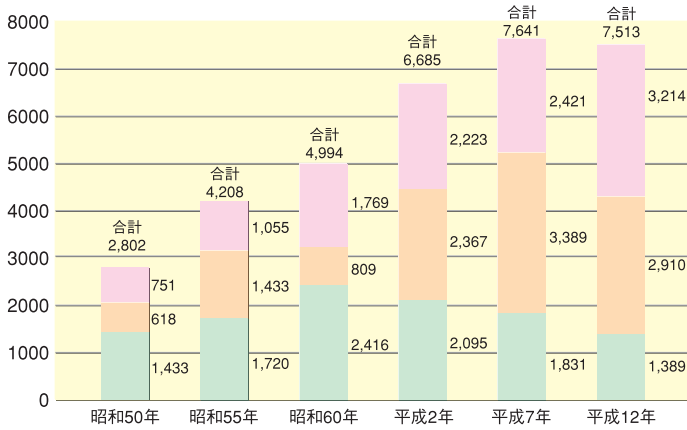
資料：住民基本台帳

年 度		S45	S50	S60	H2	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	
人口(1月1日)		4,276	4,102	4,170	4,016	3,852	3,850	3,870	3,938	3,969	3,964	3,955	3,957	3,973	
年 計	自然増加	出生	49	50	52	39	39	33	29	42	28	21	38	29	31
		死亡	33	45	29	31	29	39	43	35	39	38	34	38	37
		増減	16	5	23	8	10	△6	△14	7	△11	△17	4	△9	△6
	社会増加	転入	130	96	90	80	91	111	180	126	102	120	109	116	89
		転出	217	152	120	125	103	85	98	102	96	112	111	91	96
		増減	△87	△56	△30	△45	△12	26	82	24	6	8	△2	25	△7

産業別純生産 (単位：百万円)

資料：市町村民所得統計

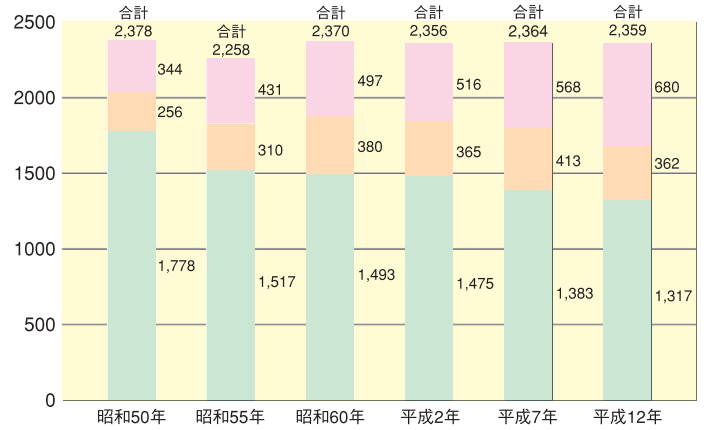
第1次産業 第2次産業 第3次産業



産業構造 (単位：人)

資料：国勢調査

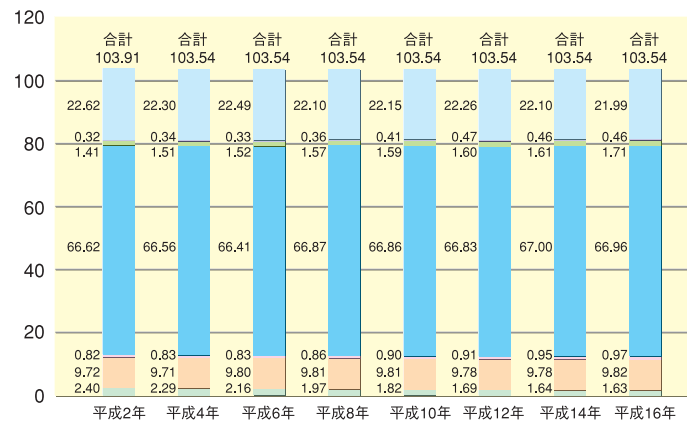
第1次産業 第2次産業 第3次産業



土地利用推移 (単位：km²)

資料：固定資産概要調査

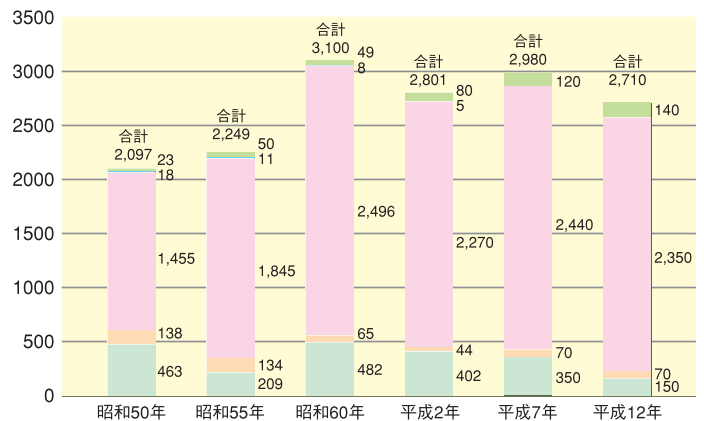
田 畑 宅地 山林 原野 雑 其他



農業粗生産額 (単位：百万円)

資料：青森県農林水産統計年報

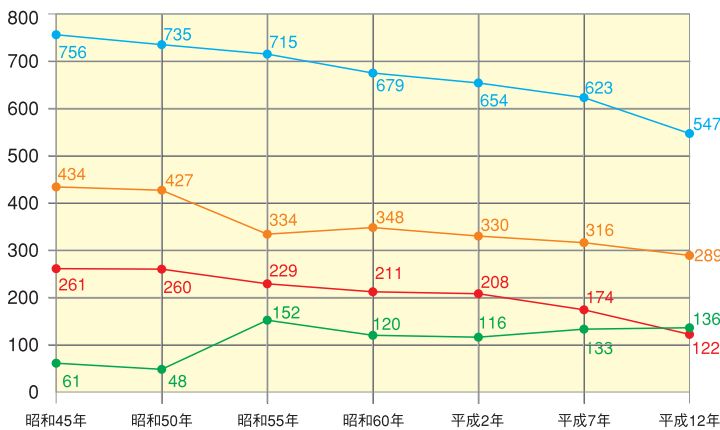
米 野菜 果樹 畜産 その他



農家戸数の推移 (単位：戸)

資料：農林業センサス

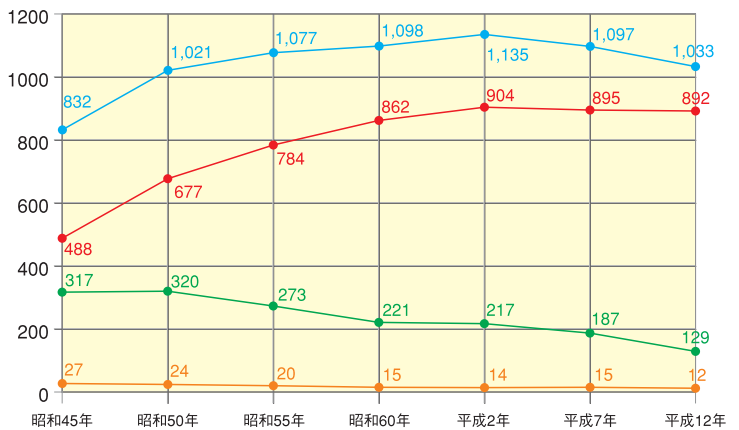
専業 第1種兼業 第2種兼業 合計



農業経営耕地面積 (単位：ha)

資料：農林業センサス

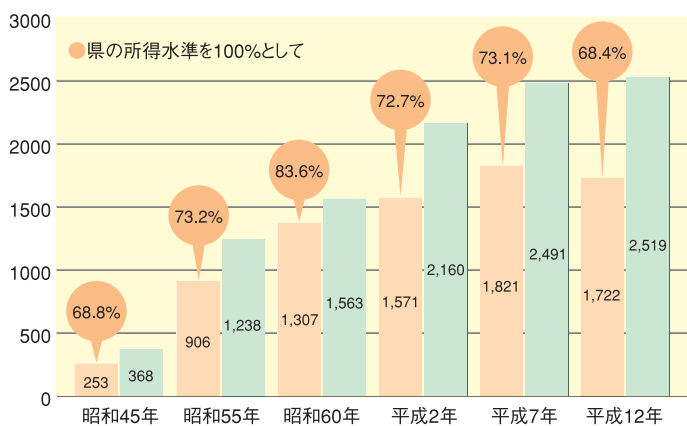
田 普通畑 樹園地 合計



一人あたりの所得水準の推移 (単位：千円)

資料：市町村民所得推計

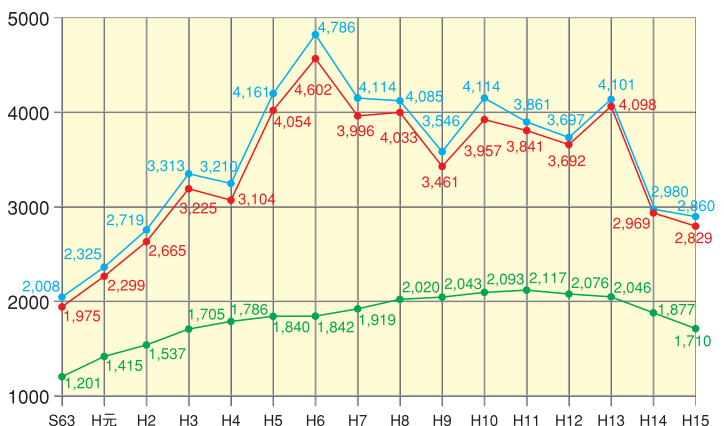
相馬村 青森県



財政規模の推移 (単位：百万円)

資料：総務財政課

標準財政規模 歳入 歳出



思ひ出の學び舎

学び舎の移り変わり

学制の發布を受けて、明治八年、湯口地区に石堂小学が開校、翌九年、紙漉沢小学と相馬小学が相次いで開校しました。

さらに、明治四十三年には、沢田地区に相馬尋常小学校沢田分教場（昭和十八年、相馬小学校沢田分校に昇格）が、昭和四年には、藍内分教場（昭和二十二年、相馬小学校藍内分校に昇格）が開設されました。

昭和六年、石堂小学校・紙漉沢小学校が合併、相馬第一尋常小学校として五所地区に開校。それに伴い、相馬尋常小学校を相馬第二尋常小学校と改称しました。また、昭和十三年、舟打鉾山の開山に伴って相馬第二尋常小学校舟打鉾山分教場が開設、昭和十五年には、独立して舟打鉾山尋常小学校となりました。

昭和二十二年、それぞれ五所小学校、相馬小学校、舟打鉾山小学校と改称され、小学校に併設される形で、五所中学校、相馬中学校、舟打鉾山中学校が開校しました。翌々二十四年、五所中学校と相馬中学校が合併し、相馬中学校として紙漉沢地区に開校しました。

その後、昭和三十八年舟打鉾山の閉山により、舟打鉾山小学校・中学校が閉校、同四十三年には、過疎化により藍内分校が、五十二年には沢田分校が開校となりました。その一方で、相馬小学校と五所小学校が統合され、黒滝地区に新しい相馬小学校として開校しました。現在、村内には、一小学校・一中学校があります。

小 学 校 系 図



中 学 校 系 図





相馬中学校



舟打鉾山小中学校(昭和13年)



紙漉沢尋常小学校(大正2年)



相馬尋常小学校(大正8年)



石堂尋常小学校(大正11年) 津軽書房「ふるさとのあゆみ 弘前II」より



相馬尋常小学校(大正7年)



相馬小学校沢田分校
(昭和12年)



相馬小学校(昭和50年代)



相馬小学校藍内分校



五所小学校(昭和38年)



相馬小学校(平成16年)



相馬村、農業116年の歴史

History For Agricultural 116 Years



農業
116年の歴史

①

林業と製炭

Forestry And Making Charcoal



りんご栽培が行われる以前、村の産業は林業と製炭でありました。

天正十三年（一五八五）後の津輕藩初代藩主・為信により、山林政策がはじめられ、植林とその保護を命じています。

その後、天和・貞

享年間（一六八一～一六八八）四代藩主・信政により、山林行政の基盤が確立され、米に次ぐ藩財源となりました。

天明四年（一七八四）には、木炭の生産が記録されていますが、それ以前から行われていたとされています。

明治期に入り、炭焼専業の戸数は村全体の三割以上、一戸当りの生産量は八百から一千俵となり、村全体の生産高は、年間十万俵から十二万俵でありました。明治四十四年から四十五年の木炭一俵の価格が、雑炭十三銭、樺炭十四銭から十五銭と、当時、米一俵を買うために木炭六十四俵が必要でした。

大正末期から昭和初期には、木炭生産組合が結成され、村民は炭焼の技術の改善に力を尽くしました。また、バスやト





ラックに木炭ガスが使われるようになるなど、需要が拡大したため、さらに村民は製炭に力を注ぎました。

この地は元来、白炭の産地として有名でしたが、昭和九年頃黒炭が一割の高値をよんだため、一部では黒炭の生産もされていきました。昭和十年代後半には、木炭実行組合が湯口・相馬・藍内・沢田の四カ所に組織され、村内の炭焼希望者は最寄の組合に加わったとされています。



村のりんご栽培の始まりは、明治三十年頃、紙漉沢の成田左衛門次郎屋敷に植えられた十五本ぐらゐの苗木からだといわれています。最初は庭先から始まったりんご栽培が、次第に山手に伸び、

大正時代には傾斜地栽培が盛んに行われるようになっていきました。

昭和三十年頃には、もと秣場(まぐさば)の払い下げが始まったのをきっかけに、りんご園の開墾が急速に進み、五十年代には初期の三倍に達しました。

また、この頃には、薬剤散布が個人の動力噴霧機からスピードスプレーヤーに代わったことにより、作付面積が増え、現在の生産一〇〇万箱時代の幕開けとなりました。当時の主な出荷先は、横浜近郊の市場で「ぬか詰」出荷利用がされていました。

昭和四十年には、相馬村りんご品種更新推進協議会が設立され、それまで主力品種であった国光・紅玉の品種構成を変えようという試みがありました。みかんの大增産に加えて消費者の味覚指向が一段と進み、同四十四年には、味ののらない国光・紅玉を大量投棄したといわれる「山川市場」現象がありました。また四十年代後半には、斑落病が異常発生し、デリス系など斑落病に弱い品種は無作の畑が多く、村内の被害金額は四

農業
116年の歴史

②-1

りんご栽培の歩み

A Pace of Apple Cultivation

農業・りんご史

- 1893 明治二十六年
- 1943 (昭和十八年)
- 1951 (昭和二十六年)
- 1961 (昭和三十六年)
- 1966 (昭和四十一年)
- 1969 (昭和四十四年)
- 1972 (昭和四十七年)
- 1982 (昭和五十七年)
- 1990 (平成二年)
- 1997 (平成九年)
- 2001 (平成十三年)



大日本農会主催の農産品評会が盛岡で開催され、りんご出品。

りんご園耕作転換令が出る。相馬村では生産者割合反別にりんごの木を切り、粟・陸稻・馬鈴薯などに転換。産業組合が農会と合体して農業会となる。

村内に農事研究会、りんご研究会発足。

りんご共同防除組合設立。スピードスプレーヤーが村に登場。

相馬村りんご品種更新協議会設立。

北九州で相馬りんご初の消費宣伝。

集中豪雨で紙漉沢集団、同共防保管農業など被害を受ける。

湯口支会がりんご無袋栽培で農林水産大臣賞受賞。

湯口支会がりんご二回目の農林水産大臣賞受賞。

りんご価格大暴落。低価格時代に突入。

りんご価格大暴落。



億四千万円でした。

昭和五十年代になると、経済成長の波に乗り、高品質と多収穫に向けて取り組みようになりました。この頃の品種は、ふじ・デリ系が八割を占めるようになり、無袋が不可能とされていた村で「サンふじ」が農林水産大臣賞を受賞するなど、銘柄産地の育成強化が実った時代でもありました。

平成に入ってから、肥料も無機質から有機質に移り、土壌を考えたりんご栽培を行なうようになりました。また、収益性の高い「わい化栽培」も普及し始めました。

相馬村のりんご作りは明治三十年代から始まり、百年を越える歴史があります。

村の気候には、冷涼で昼夜の寒暖の差が大きいという特長があり、これがりんごの生育には欠かせない気象条件となつて現在の生産量を迎えるまでとなりました。

現在「飛馬印りんご」は、稲わらや樹皮を発酵させた有機肥料、バーク堆肥で育てられ、堅くて美味良質の産地銘柄として全国の市場でそのブランド名が確立しています。

① 秣場（まぐさば）／牛や馬などの飼料とする草やわらを置いた場所。昭和三十年以降、農業の機械化により牛馬が減少し不要になった。

② むか詰／松や杉の板で作った木箱におがくず（もみがら）を詰め、繻で梱包してりんごを貯蔵、百〜百四十個を詰めた木箱を鉄道で出荷していた。

③ わい化／あまり大きく成長しない性質を持った台木に接木して、木を小さく仕立てる栽培法。作業がしやすく、実を付けるまで三年ほどと従来の栽培法の約半分、多くの木を植えることができるため収穫量を増やすこともできる。

農業
116年の歴史

②-2

りんご生産量

Apple Quantity Of Production

現在、相馬村のりんご農家では「ふじ」の生産に力を入れており、その生産量は、品種更新が勧められた昭和四十六年の約十倍にものぼりました。五十年代には、耕作面積が九百ヘクタールになり、昭和初期の約三倍に達しました。作付け面積が増えた要因の中には、薬剤散布が、個人の動力噴霧器からスピードスプレーヤーに変わったことがあります。もう一つには、品種更新推進協議会の設立によるもので品種更新協議会の事務局である農協指導課は、穂木を探して岩手、福島県まで出かけ、新品種を求めて配布試作させました。それが、現在、県内で最も品種更新が進んだ産地として成長することになったのです。



りんご生産量	
年次	生産量(単位:箱)
昭和46年	51万
昭和47年	42万
昭和48年	46万
昭和49年	48万
昭和50年	59万
昭和51年	53万
昭和52年	71万
昭和53年	54万
昭和54年	63万
昭和55年	73万
昭和56年	68万
昭和57年	69万
昭和58年	81万
昭和59年	63万
昭和60年	64万
昭和61年	69万
昭和62年	73万
昭和63年	82万
平成元年	80万
平成2年	91万
平成3年	87万
平成4年	100万
平成5年	92万
平成6年	97万
平成7年	107万
平成8年	88万
平成9年	99万
平成10年	100万
平成11年	91万
平成12年	82万
平成13年	108万
平成14年	116万
平成15年	85万

資料：相馬村農協

近年では生産の五十パーセントが「ふじ」、残りの五十パーセントが「ジョナゴールド」、「王林」、「つがる」の割合で生産されており、年々各品種の生産量は増加傾向にあります。



村内のりんご生産量は、年々増加傾向にあるものの、台風や集中豪雨、干ばつや日照不足など、生産量に大きく影響する災害が起こり、生産量が減少する年もありました。なかでも、平成三年に上陸した台風十九号は、収穫間近のりんごに壊滅的な被害を与え、村の被害額三十六億円という記録的なものとなりました。平成十二年には、前年の干ばつの影響でふじの生産は大きく減少、さらに平成十五年には、天候不順や台風十四号の影響で前年を二十五パーセントも下回る結果となりました。



農業
116年の歴史
②-3

自然災害 Natural Disaster

りんご生産量に影響を与えた災害

1965 (昭和四十年)	台風二十三号(九月十一日)二十四号(九月十七日十八日)
1972 (昭和四十七年)	りんご黒星病が大発生。県下三十八市町村、二百八十五地域におよび、県と各市町村に「りんご黒星病防除緊急対策本部」を設置し全県的な防除対策を展開。集中豪雨。
1976 (昭和五十年)	雹害、台風十七号
1978 (昭和五十二年)	異常気象 異常落果
1979 (昭和五十四年)	雹害、台風二十号、被害面積八・八二ヘクタール。
1980 (昭和五十五年)	冷害
1981 (昭和五十六年)	冷害、台風十五号でりんごに被害八九一ヘクタール。
1982 (昭和五十七年)	台風十八号
1987 (昭和六十年)	台風十二号から変わった低気圧の強風により県内全域で落果被害。
1991 (平成三年)	台風十九号で壊滅的な被害を受ける。本県りんご栽培史上最大の被害を受けた。天災融資法の発動及び激甚災害法の適用。
1996 (平成八年)	春からの記録的な低温、日照不足により開花が遅れる。八月の干ばつなど気象条件に恵まれず小玉傾向となる。
1997 (平成九年)	一部地域で降雹の被害が出る。
1998 (平成十年)	収穫後半の十一月十九日に凍害被害発生。
1999 (平成十一年)	九月二十五日未明の台風により被害を若干受けた。
2000 (平成十二年)	前年の干ばつによる影響で花芽不足が発生、ふじに影響が出た。
2004 (平成十六年)	暴風雨などにより、りんご落果被害。

稲作

Rice Crop



村制施行以前から村では稲作が行われていたが、当時の稲作技術は品種改良に至らず、害虫駆除、馬耕法、塩水選が主だったようです。

明治七年ごろから害虫の被害が始まり、その被害をくい止める対策として、被害茎の抜き取り焼却や畦畔の火入れなどが行われ、住民は害虫駆除を専門的に行う人を雇ったとの話もあるほど苦労しました。

人間の労力に代わり馬耕法が普及されたのは、明治十一年、県令山田秀典によるものでした。また、明治二十年には県の技員が塩水を各郡の有志に配布したのがきっかけで、塩水選が始まりました。これらの技法が相馬村に普及したことから、米の生産が徐々に伸び始めました。

明治三十五年頃には「相馬村農会」が設立され、立毛(稲作)品評会などを開催して技量を競わせました。また、大正末期からはりんご品評会も稲作とあわせて開催され、昭和十三年頃まで続きました。さらに、堆肥づくり競技会なども開き、技術向上や導入・普及に努めました。

戦後間もない昭和二十二年には、農協法が制定され、農業会は解散、村内には新たに五つの

農業協同組合が設立されました。各農協の地域ごとに農事研究会があり、農協の指導事業を担当していました。

昭和四十年代前半、経済が繁栄を続けるなか、農業経済においては停滞基調を示していました。

特に米は過剰米が多くなり、政府は買い入れ価格の抑制と生産調整を実施

することになりました。そのため村内では、稲作の近代化によってコスト低減を図るため、昭和四十三年から四十七年まで県営圃場整備事業を実施、二百三十六ヘクタールを三十九区画に整備しました。昭和五十年頃からは、いよいよ稲作の機械化が始まり、それが、りんご産業発展にもつながりました。

平成に入り、幻の銘柄米「ムツニシキ」が再登場してきました。昭和四十年代に脚光を浴びたムツニシキを再び全村で作付けすることになり、村独自の低農薬米として生産されました。昭和四十五年には三百十七ヘクタールあった水田も、現在は約四割の百二十ヘクタールと減少が続けていますが、有機低農薬栽培にこだわり、安全でおいしい相馬米が栽培されています。



農業・穀物史

1853 (嘉永六年)

1902 (明治三十五年)

1910 (明治四十三年)

1943 (昭和十八年)

1947 (昭和二十二年)

1958 (昭和三十三年)

1959 (昭和三十四年)

1961 (昭和三十六年)

1964 (昭和三十九年)

1977 (昭和五十二年)

1980 (昭和五十五年)

1983 (昭和五十八年)

1988 (昭和六十二年)

1998 (平成十年)

1999 (平成十一年)

相馬村に漆苗を二十本植付ける。

相馬村農会設立。農業技術が普及し、生産増強をはかった。

相馬村農会主催、第一回相馬村立毛品評会開催。

農会と産業組合が結合され相馬村農業会が発足。

村農業会が解散し、五つの農業協同組合設立。

台風二十一号。耕地の被害面積約三十ヘクタール。

湯口・相馬・紙漉沢の三農協が合併して相馬村農協設立。

相馬・藤沢の二農協が合併して相馬第一農協を設立。

相馬村農業協同組合誕生。

津軽地方に集中豪雨。耕地の被害一億四千八百万円にのぼる。

冷夏で大凶作となる。政府は天災融資法、激甚災害法を発動。

藍内に「きのこ生産施設」完成。ヒラタケなどの茸の生産に力を入れる。

相馬村初の農業経営士誕生。

つがるロマン作付開始。

環境保全型農業「全国会長賞」受賞。水稲は、全生産者が稲わらの全量すき込みや有機質肥料による土づくりを行い、化学肥料を削減。

三月、村全域をカバーする大規模生産組織として稲作生産組合「ライスロマッククラブ」を設立、四月から全作業を実施。経営削減や、後継者の育成に力を注ぎ、明日を拓く「青森県農業賞」で、生産組織部門から大賞を受賞、更に食味コンクールにおいて優秀賞を受賞。



米 生 産 量	
年 次	生産量(単位:俵)
昭和46年	12,485
昭和47年	16,934
昭和48年	18,235
昭和49年	19,947
昭和50年	18,664
昭和51年	16,272
昭和52年	18,592
昭和53年	20,064
昭和54年	18,049
昭和55年	7,251
昭和56年	14,006
昭和57年	15,153
昭和58年	15,114
昭和59年	15,895
昭和60年	16,014
昭和61年	16,823
昭和62年	14,954
昭和63年	14,184
平成元年	14,631
平成2年	13,570
平成3年	12,249
平成4年	12,662
平成5年	5,818
平成6年	11,000
平成7年	10,501
平成8年	9,536
平成9年	8,335
平成10年	7,970
平成11年	7,025
平成12年	7,118
平成13年	6,913
平成14年	7,020
平成15年	5,574

資料：相馬村農協



それまで、りんごの栽培がさかに行われていた村内ですが、昭和のはじめの満州事変から、日中戦争・第二次世界大戦と戦争が激しくなってくると、食糧生産が奨励され、りんごの木を伐採してまで穀物を植えさせられました。また、肥料・農薬・農具などの生産資材の減少、働き盛りの青年が兵役や軍需工場へ動員されるなど、農業生産力が急速におとろえ始めました。戦争が終わると村の田畑は荒廃してしまいました。そのためりんご園では木を伐採した後に、大豆・馬鈴薯・蕎麦などを植え、食糧としたのです。終戦で復員した働き手が加わり、戦後の復興作業はまさに、農村の食糧増産から始まりました。

そんな中、村では、小林文雄技師（元県農会技師）を招いて農業技術の普及をはかりました。小林技師の指導は、その後の相馬の農業技術において大きな力となりました。

現在の相馬村では、冬の農業として、花卉栽培・ビニールハウス栽培が行われています。ビニールハウスでは、アスパラ菜・春菊・トマトなどが栽培されています。



それまで、りんごの栽培がさかに行われていた村内ですが、昭和のはじめの満州事変から、日中戦争・第二次世界大戦と戦争が激しくなってくると、食糧生産が奨励され、りんごの木を伐採してまで穀物を植えさせられました。また、肥料・農薬・農具などの生産資材の減少、働き盛りの青年が兵役や軍需工場へ動員されるなど、農業生産力が急速におとろえ始めました。戦争が終わると村の田畑は荒廃してしまいました。そのためりんご園では木を伐採した後に、大豆・馬鈴薯・蕎麦などを植え、食糧としたのです。終戦で復員した働き手が加わり、戦後の復興作業はまさに、農村の食糧増産から始まりました。

農業
116年の歴史

④

花卉・野菜

A Flowering Plant and Vegetables



国会議員



元衆議院議員 **山内 弘**

- ◆旧社会党
- ◆任期／平成2年～平成5年
- ◆昭和42年、38歳で青森県議会議員に当選（4期）。昭和53年に日本社会党青森県本部委員長を務めた後、平成2年に衆議院議員に当選。平成3年には衆議院建設委員会筆頭理事（委員長 野中広務）、国対委員会理事のほか、党内においては政策集団「新しい力」（会員30名）の会長を務めるなど、多方面において国政に尽力されました。



元参議院議員 **三上隆雄**（勲三等旭日中綬章平成15年受章）

- ◆無所属
- ◆任期／平成元年～平成7年
- ◆37歳で村議会議員に初当選。5期18年（議長1期）村議会議員として活躍された後、真の農民代表を国政への運動の中で、当時、県農政連幹事長であった三上氏は参議院選挙に立候補し、反核燃運動の中で見事当選。平成5年には参院決算委員長を務めるなど、政治・社会活動を活発に展開しました。また、平成11年から現在まで青森県議として活躍しております。

人物紹介

Person Introduction



名誉村民第1号
元医師 **山田信男**（平成14年永眠）

山田信男氏は戦後44年間、村の国保診療所長として地域医療を支え続け、無医村だった相馬村に住みながら診療や往診を行ってきました。平成3年3月の退職と同時に名誉村民となり、その偉大な業績は広く村民に伝えられています。

名誉村民



名誉村民第2号
元村長 **山内一義**

山内一義氏は昭和46年に村議会議員に初当選。3期12年間村議会議員として務めた後、昭和58年には村長に当選。「21世紀に飛躍する村づくり」を目指し連続5期20年にわたり第一線で活躍し、下水道整備や宅地造成、星と森のロマンピア建設など住民の福利増進と村政の発展に尽力しました。また、在任中には青森県町村会長を務めるなど功績が高く評価され、平成16年に旭日小綬章を受章しました。

相馬村名誉村民とは

平成3年3月に村の条例で定められた独自の称号です。この称号が贈られるのは相馬村に居住する人、または相馬村に縁故の深い人で、広く社会の進展や学術文化の興隆に貢献し、郷土の誇りとして村民から深く尊敬されるような業績のあった人となります。名誉村民として認定された人には称号記と名誉村民章を授与し、また、その功績などを公表し顕彰します。

オリンピック選手



花田敏博 (複合)

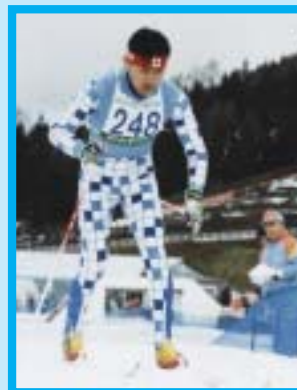
(1995年永眠)

- ◆開催年／1980年 第13回冬季大会
- ◆開催国／レークプラシッド(アメリカ)
- ◆戦 績／27位



沢田 敦 (アルペン)

- ◆開催年／1980年 第13回冬季大会
- ◆開催国／レークプラシッド(アメリカ)
- ◆戦 績／回転15位、大回転36位



中沢祐政 (距離)

- ◆開催年／1984年 第14回冬季大会
- ◆開催国／サラエボ(ユーゴスラビア)
- ◆戦 績／40kmリレー13位、15km56位

相 馬 村

S o m a - V i l l a g e



石岡千秋 (アルペン)

- ◆開催年／1988年 第15回冬季大会
- ◆開催国／カルガリー(カナダ)
- ◆戦 績／大回転31位

写真提供：陸奥新報社



石岡拓也 (アルペン)

- ◆開催年／1992年 第16回冬季大会
- ◆開催国／アルベールビル(フランス)
- ◆戦 績／複合9位、大回転29位、S大回転41位

- ◆開催年／1994年 第17回冬季大会
- ◆開催国／リレハンメル(ノルウェー)
- ◆戦 績／回転19位

- ◆開催年／1998年 第18回冬季大会
- ◆開催国／長野(日本)
- ◆戦 績／回転21位、大回転29位



田沢修治 (射撃)

- ◆開催年／2004年 第28回夏季大会
- ◆開催国／アテネ(ギリシャ)
- ◆戦 績／ラピッドファイヤーピストル予選15位
エアピストル予選30位

相馬に輝く16の星

行政区のあゆみ

明治二十二年四月、市町村制が施行され、「相馬村」が誕生しました。このとき、紙漉沢・五所・水木在家・坂市・藤沢・相馬・大助・沢田・藍内の九つの大字が統合され、五所に役場を置いています。さらに同年七月、湯口と黒滝が加わり、十一大字で構成される自治体になりました。

昭和八年には舟打鉾山の発展にともない、舟打も行政区に加えましたが、昭和三十七年の閉山により除外されました。

昭和二十二年の地方自治法施行により、大字相馬から山田・前相馬・桐ノ木沢が独立、十四の行政区となりました。

昭和五十七年には、村営住宅建設により安田地区を、また平成十年には昂地区を加え、十六の行政区で現在に至っています。



桐ノ木沢
*Kirinokisawa*area



五所
*Gosho*area



藤 沢
*Fujisawa*area



湯 口
*Yuguchi*area



大 助
*Osuke*area



水木在家
*Mizukizaike*area



相 馬
*Soma*area



昂
*Subaru*area



藍 内
*Aina*area



紙漉沢
*Kamisukisawa*area



前相馬
*Maesoma*area



安 田
*Yasuta*area



沢 田
*Sawada*area



坂 市
*Sakaichi*area



山 田
*Yamada*area

黒 滝
*Kurotaki*area



湯口地区



守り続けたい地区の伝統

湯口地区には、早くから人々が住んでいたように、それは一ノ下り山遺跡の発掘により、今から九千年前からだとわかった。遺跡からは、縄文時代から平安時代の遺物が数多く出土され、話題となった。湯口地区には八ヶ所の遺跡があり、今後これらをはじめ、合併後も、湯口地区の伝統、祭り事、石戸神社の大祭、二十三夜様、庚申塔、百万遍などの祭り事を継続していきたい、特に村でも数少なくなっている清泉（しつせん）などは、湯口地区みんなで守っていきたいものであります。



地区代表 湯口地区会長
澤田 健雄

- ◆人口／642人（うち男性307人・女性335人）
- ◆世帯数／161世帯
- ◆主な行事／石戸神社大祭（4月30日・7月30日・11月30日）

※平成16年4月1日現在



メノコの墓



平成16年度村民体育祭にて



日頃、りんご・野菜・果物等が販売されている
直売所「林檎の森」



石戸神社前にて(平成16年8月15日)



清泉(しつこ)



覚応院境内の庚申塔



石戸神社大鳥居
(付近には忠魂碑、殉国之碑、皇紀2600年記念の碑が建立されている)

昂地区



夢と希望が詰まった手づくりのまち

相馬の山河、街並み、それに村人の心に魅せられて老後の棲み家を「すばる」に決め、神奈川の湘南から引っ越して2年になる。

今時古ぼけた庁舎での住民優先の行政は「相馬の心と誇り」が感じられる。もともと住み良い街にしようと思った矢先の閉村は寂しいが、この「心と誇り」は何があつても守り続けたい。

平成の大合併は逼迫した財政の救済策だと思いが、「大」は「細に」神経が回らないの理から三位一体で地方に分権しようとする国の政策と矛盾する。最大の課題は「合併と言う合理化の後に来る矛盾をどう解決するか」である。津軽南協議会は目的・対応策をそつちのけにして流産したが、個人的には良かったと思う。魂の無い「市」が生まれるよりはましである。

昂は相馬村が夢と希望を持って作った、弘前近郊でも類を見ない心の豊かさを感じさせるモデル住宅地です。平成10年度に、建設大臣から「手づくり郷土（ふるさと）賞」を頂いたこの素晴らしい資産を守り、新しい文化を築くのが私の願いです。



地区代表 昂地区会長
佐藤 弘信

- ◆人口／305人（うち男性142人・女性163人）
- ◆世帯数／92世帯
- ◆主な行事／夏祭り

※平成16年4月1日現在



昂地区憩いの場「中央公園」



手づくり郷土賞受賞銘板



平成8年に造成された昂地区



公園前の親水空間にて(平成16年7月17日)

SOMA
Stars On Many Amenities
Subaruarea
相馬に輝く16の星



集会所「すばる103」



夏祭り作品展示



広場で盛大に行われる夏祭り

安田地区



村内初、集合住宅の行政区

◆人口／128人（うち男性60人・女性68人）
◆世帯数／51世帯



地区代表 安田地区会長
掃部 和彦

安田地区には、人口流出の歯止めとして国からの補助を受け、住宅に困っている低所得者に賃貸する公共の相馬村村営住宅という建物が出来たみたいです。

通称「安田団地」と言われ、団地そのものが地区として成り立っているのは世間的にも珍しく、二十数年という短い歴史の中にも数々の栄光と挫折のドラマがあったようです。ただ、年数の浅い自分には、よくわからないのですが、地区運営当初は大変だったと前任者の方たちが言っていました。

相馬村が合併閉村ということで、合併に携わった人たちが、建設的・発展的に模索を繰り返し、最良の結果に至ったことと信じるしかありません。

相馬村で生まれ育ったみんなは、村がなくなることに對して、なんとなく淋しい気がします。



ママさんバレーの仲間たち



平成16年度村民体育祭にて



昭和58年建設大臣賞受賞

※平成16年4月1日現在



集会場前にて(平成16年7月25日)



村営住宅



親子のひととき



太陽光を利用したソーラーシステム

黒滝地区



先人の努力が集積された住みよい地区

地区名の由来も、発祥もつまびらかでない。古くは、木の実や山菜、蛋白源を採取し易い山手に住んだ形跡がある。採取生活から農耕文化が芽生えて、現在の平地に移動して集落が発達したことは凡そ見当がつく。集落ができて水田、畑、森へと順次生活の基盤が形成されたことは想像できる。この地区は、川よりも山を頼りにした生活が長かったと思う。山の神を拝み、農耕して稲荷神社を祀り、豊作を祈り、神仏を中心とした生活の拠り所ができて、安住を祈り、古きよき時代に生きたと思う。紆余曲折を経て明治、大正と変容の時代を経て、戦後（昭和22年）の農地改革を機に、農業の近代化が急速に進み、今日に至った。昭和23年頃まで、神社の入口に郷蔵倉があり、米を備蓄し飯米に不足をきたした者に貸米をする互助制度があつて、部落共同体の中心をなしたものと先輩が言う。

先人の努力が集積された、住みよい所で、近年、転入者が増加し84戸を数え、合併を機に一層の発展を祈念したい。



地区代表 黒滝地区会長
山内 正治

◆人口／318人（うち男性149人・女性169人） ※平成16年4月1日現在

◆主な行事／稲荷神社（王産神、氏子縁日（旧暦6月10日）、地藏様縁日（旧暦6月23日）、山の神縁日（旧暦12日）、ねんぶつこ（念仏講）念仏起し（春彼岸中1回）、念仏納め（秋彼岸・11月17日・20日1回）、いたこあそび（春1回）、獅子舞（旧暦8月2日）、十五夜／秋獅子納め

◆世帯数／90世帯



霊水の水屋



黒滝獅子舞（山かけ）



念仏講を終え地藏様の前で





黒滝担い手センター前にて(平成16年7月26日)



スピードスプレーヤー格納庫
りんご共同防除のさががけ(昭和40年)



地区役員会



稲荷神社

五所地区



古くから栄えた村の中核地

五所地区は、西部に岩木川が流れ、相馬川合流点付近には水田地帯が広がっています。南部はりんご園と針葉樹林帯です。北部を県道、関ヶ平・五代線が斜断して紙漉沢に向かい、主幹線村道が当地から水木在家につながります。

沿道には、公共施設、商店、住宅が密集し、集落五所が形成され、北東隣の黒滝と合わせて村の中核地をなしています。村役場をはじめ、議会議事堂・相馬村総合開発センター・多目的研修集会施設「長慶閣」・診療所・五所保育所・老人福祉センター・保養センター・運動広場・郵便局・商工会・相馬村農協本所などがあります。

また、集落南には、藩政期からの記録が残る五所神社があります。この神社は、五所川原八幡宮につながる伝説を持ち、古くから栄えた地区ですが、合併後も益々の発展を祈願します。



地区代表 五所地区会長
澤田 義晴

- ◆人口／513人（うち男性243人・女性270人）
- ◆世帯数／137世帯
- ◆主な行事／五所神社前夜祭（7月3日）、五所神社大祭（7月4日）

※平成16年4月1日現在



野球大会（五所運動広場）



好天に恵まれた平成16年度の相馬村民体育祭



村の拠点となる相馬村役場



五所神社前にて(平成16年7月3日)



開発センター・多目的研修集会施設「長慶閣」



国保診療所・老人福祉センター



御神体をお祀りする五所神社本殿の清掃

水木在家地区



心がかよう地域づくりへ向けて

当地区は、長い歴史の中で桜井玄蕃の館（1877年）の設置や、長慶天皇（1385年）の東の守護神として軍事方水木兵部尉堅正が護衛に当たったと記されている。地名にも「水木在家字桜井」というこれらの人の名字が残っている。また、明治初期の水木在家村と思われる図面・書籍等も公民館に残されている。

当地区は現在、戸数65戸で道路沿いに細長い集落となっており、毎年6月12日早苗饗（サナブリ）が神社で行われ、地区の大人達が祭りを盛り上げている。しかし昔のような「子供から大人まで家族全員参加した時代」がなくなり、地域の協調性が薄れてきたような気がする。『昔のようなお互いに助け合い声を掛け合う地域づくり』ができれば当地区の魅力となり、さらに活力も生まれ、人がそこに住みたくなる環境ができる。人と人の心がかよう社会である。地元には星と森のロマントピアそうま：そうまロマントピアスキー場があり、いつでも利用でき、自然環境も良い。そのためにはみんなが地区の一層の発展を期待し、それに向かつて努力したいところである。



地区代表 水木在家地区会長
三上 博

- ◆人口／252人（うち男性126人・女性126人）
- ◆世帯数／68世帯
- ◆主な行事／早苗饗（田暦6月12日）

※平成16年4月1日現在



村内ソフトボール大会で優勝



大山祇神社前で



村の人たちの交流拠点として賑わう
ロマントピアそうま 星の宿「白鳥座」



ロマンピアスキー場にて(平成16年7月25日)

SOMA
Stars On Many Amenities
Mizukizaikearea
相馬に輝く16の星



大山祇神社鳥居



毎年大勢のスキーヤーが集う村民スキー大会



村制施行100周年ネブタ運行

紙漣沢地区



継承を願う地区の歴史と伝統

地区のほぼ中央の小高い森の頂上に第98代長慶天皇御陵墓参考地があります。また、天正年間の約400年前、弘田義徳という人が寺子屋を開き、村人の教育に貢献し、この寺子屋が青森県では最も古いものといわれています。

相馬村でりんご栽培がはじまったのは、明治30年頃、この地区の成田左衛門次郎屋敷（現、田中重氏所有）に植えられたのが、最も古いといわれております。このように伝説と歴史の多いこの地区には、戸数132戸と542名の人が住んでおります。りんごこと米づくり農業を中心とした農家が最も多い地区であります。

また、古い時代から五穀豊穡や悪疫退散の願いや家内安全、地区の繁栄を祈つての、獅子舞があります。この貴重な伝統文化を失わないように、若い人たちが子供たちにいつまでも継承されることをお願い申し上げてるところであります。



地区代表 紙漣沢地区会長
大場 和道



旧長慶天皇御陵墓参考地跡



上皇宮



平成16年度村民体育祭にて

- ◆人口／542人（うち男性265人・女性277人）
- ◆世帯数／143世帯
- ◆主な行事／宵宮（7月12日）、上皇宮大祭（7月13日）、盆踊り（8月15日）、獅子舞（十五夜）

※平成16年4月1日現在



上皇宮境内にて(平成16年7月10日)


Kamisukisawaarea
 相馬に輝く16の星



盆踊り大会



元日の村参り



十五夜の獅子舞

坂市地区



譲り合い、共に協力し合う地区

相馬村は全体的にまとまりのある村ですが、中でもこの坂市地区は特に協調性のある地域だと思っています。皆さん人柄もよく、年に1回の雷電宮大祭の他にも、行事があると若い人も皆ボランティアで集い協力してくれます。

雷電宮大祭は以前は旧暦6月1日に行っていました。が、予算の都合や、地域の人達の仕事の都合により、昨年からは7月の第1日曜日に行うようになりました。また、これまで行っていた旧正月の行事を取りやめて、この大祭一本に絞って大きく開催することになりました。

これから、合併後の相馬村がどのようになるかはわかりませんが、これで最後という気持ちは持っていません。



地区代表 坂市地区会長
柴田 昭秀

- ◆人口／233人（うち男性98人〈長慶苑9人〉・女性135人〈長慶苑22人〉）
- ◆世帯数／83世帯〈長慶苑30世帯〉
※平成16年4月1日現在
- ◆主な行事／雷電宮神社大祭（7月第1日曜日）



平成16年度村民体育祭にて



特別養護老人ホーム「長慶苑」



坂市沢ため池



雷電宮神社にて(平成16年7月4日)

SOMA
Stars On Many Amenities
Sakaichiarea
相馬に輝く16の星



雷電宮神社の草取り



明治6年頃は大雷神と記述され、
雷電宮の呼称は後のこと



地区住民の家内安全祈願

藤沢地区



活力の満ちた地区であり続けることを願い

古くから、藤沢地区にメノコ館があったと言ひ伝えられてきました。天和絵図(天和4年)によると、三つの山が描かれていて、その右側の山の上にメノコ館の標が記されています。その下に「相馬村枝村、家五軒」と書かれてあり、その枝村とは藤沢村のことを言ひ、藤沢に家が五軒あったことを物語っています。現在は、藤沢地区に39世帯住んでいますが、45世帯の時もありました。

今から10年程前、村及び県に活性化施設(当時、担い手センター)の建設を要望し、平成10年8月、地縁団体「藤沢地区会」として認可され藤沢地区の中央に建設用地を購入しました。それから3年後の平成13年9月、中山間地域総合整備事業による立派な施設「持寄館」が完成、子供会から老人クラブまで各種団体の会議や研修に多く利用され、大変喜ばれています。

将来も持寄館を拠点に地区住民が互いに助け合い、楽しい活力の満ちた藤沢地区であり続けることを願っています。



地区代表 藤沢地区会長
熊谷 榮作

- ◆人口 / 172人(うち男性78人・女性94人)
- ◆世帯数 / 43世帯
- ◆主な行事 / 祈願祭(1月4日)、野田神社例祭(7月12日)

※平成16年4月1日現在



持寄城跡全景



持寄城跡



持寄館



持寄館内にて(平成16年7月11日)

SOMA
Stars On Many Amenities
Fujisawaarea
相馬に輝く16の星



子どもたちが楽しんでいる納涼祭



野田神社例祭



野田神社

相馬地区



「和合」を合い言葉にこれからも

相馬地区には、八反田と二丁木の二つの小字があり、戸数58戸、人口約175名で、職業はりんごの専業農家を中心に商工業、公務員、団体職員等多種にわたっており、地区公民館には「和合」の掲額が有り、和合を合い言葉に地区の活動を行っております。

当地区の誇りとしてまず、りんごの「むつ」があると思います。昭和39年、一人のりんご研修生から始まり、相馬の「むつ」は地区農家の汗の結晶・努力の結果、日本一のブランド品になりました。次に、地区の共有林です。役員、関係者の努力により見事な成長ぶりを見せております。また、オリンピック冬季大会のスキージョイデック競技に、二人の選手が出場したことも地区の誇りであり、同時に子供たちに大きな夢と希望を与えて下さいました。

これからは、多くの先人達の足跡を学び「和合」を合い言葉に活力ある地区を創って行きたいと思っています。そのためには、りんご農家の後継者が一人でも多く育つことを願うものです。



地区代表 相馬地区会長
嶋口昭男

- ◆人口／190人（うち男性92人・女性98人）
- ◆世帯数／59世帯
- ◆主な行事／馬頭観音（旧暦5月5日）、淡島神社大祭（7月8日）

※平成16年4月1日現在



スピードスプレーヤーとたのしい生産者たちー飛馬りんご「目標病害虫0（ゼロ）」



平成16年度村民体育祭にて



一丁木の大公孫樹にて(平成16年6月22日)



いつの日か銘木「相馬杉」に



活気あふれる平成16年度村民体育祭



伝統文化を受け継ぐ御山参詣

前相馬地区



気持ちを新たに頑張りたい



地区代表 前相馬地区会長
成田 久光

生まれた時から相馬村で育った自分としては、閉村合併を迎えるにあたって、ちょっと淋しい気持ちになります。

若い時には「出身はどこですか？」の問いに「相馬」と答えると「どの辺にあるの？」と言われましたが、最近ではJ Aやロマントピアそうまなど、テレビ・ラジオ等で流れるので、かなり知ってる人が多いと思います。

小さい村でも活気にあふれ、また行政面でも広く村民の意見に対応してくれるなど、これからますます発展できると信じていただけに、とても残念に思っています。でも、気持ちを切り替えて頑張っていきたいと思えます。

長い間、『相馬村』御苦勞様でした。

- ◆人口／112人（うち男性56人・女性56人）
- ◆世帯数／32世帯
- ◆主な行事／さなぶり（6月第1日曜日）

※平成16年4月1日現在



神社の解体作業を終えて



平成16年度村民体育祭にて



相馬森林事務所



前相馬地区公民館前にて(平成16年8月4日)



宝竜大権現を建立
解体作業工事の安全を祈願



解体作業



建立された宝竜大権現

桐ノ木沢地区



期待できる未来の地域づくり

桐ノ木沢地区は、村の高台にあり、薬師如来を祀る淡島神社の下方にある「薬師堂下」と「羽根山」の2集落が藍内川の流れに沿う一本道で結ばれ、24軒の桐ノ木沢地区として存在している。

当地区の催し物では、淡島神社の例祭が毎年開催されている。当初は土産神として明治3年に改称され、相馬・山田・前相馬・桐ノ木沢・藍内の5地区の氏子が信仰してきたが、現在では相馬と桐ノ木沢の2地区の氏子のみとなった。また、村制百周年を迎えた平成元年に手づくりのネプタを作成し、毎年お盆の8月13日の夜、子供会で地区内を練り歩き、地区住民と若い人の親睦を図っている。

地区住民のチームワークもよく、若年層や児童数の多いこともあって、年に1回の村民体育祭では、昨年度の大会でAブロック優勝の栄誉を成し遂げ、現在もAブロックにとどまっている。

最近全国的に少子高齢化傾向と後継者不足の中で、りんごを米を作付けしている当地区は、後継者認定農家が9軒と村内では最も多く、将来の地域づくりが期待できる地区のように思われる。



地区代表 桐ノ木沢地区会長
今 初雄

- ◆人口／122人（うち男性59人・女性63人）
- ◆世帯数／26世帯
- ◆主な行事／淡島神社例祭（7月8日）、ネプタ運行（8月13日）

※平成16年4月1日現在



淡島神社社殿



平成15年度村民体育祭Aブロック優勝



平成16年度村民体育祭にて



淡島神社前にて(平成16年8月13日)



幼い頃から祭りに親しむ子ども



平成元年より地区内の恒例行事となった
手づくりネプタ運行



桐ノ木沢地区公民館「雪かきのボランティアに参加した皆さん」

山田地区



豊かな自然とふれあいを大切に

当地区、集落センター前のふれあいバルコには、ニジマスが飼育されており、相馬保育所の子どもたちのマス釣り会も実施されました。

また、旧6月10日に開催される稲荷神社大祭には、老若男女が集まり「五穀豊穰」「家内安全」を祈願し、バルコ前では酒を酌み交わしながら楽しいゲーム大会などで一日を過ごします。

さらに当地区では、自然を愛する事と地区の親睦をはかる事を目的として、地区所有の森林の間伐作業を実施しています。後世に残すため、また若い方々が、この杉の木のように真つすぐ成長するようにと願って、心地よい汗を流し楽しい一日を過ごします。その後は、みんなで「カンパ〜イ！」



地区代表 山田地区会長
成田 康男

- ◆人口／136人（うち男性75人・女性61人）
- ◆世帯数／35世帯
- ◆主な行事／稲荷神社大祭（旧暦6月10日）

※平成16年4月1日現在



稲荷神社鳥居



相馬保育所の子どもたちのマス釣り体験



山田集落センター



山田ふれあいパルク前にて(平成16年8月13日)



竜ヶ平りんごボート



杉林の手入れ作業



稲荷神社大祭(旧暦6月10日)には五穀豊穡・家内安全を願って参拝

大助地区



あたたかさとおずましいこの地区、いつまでも

時間が流れても、あたたかさとおずましい大助地区、いつまでも…。

相馬村の花「福寿草」や「水仙」が一足先に咲き乱れ、他の地区の人々にうらやましがられています。

い程良くあたるので、春の雪解けが早く、大助地区、いつまでも…。

当地区は、相馬村の西に位置し、県道に沿って細長い集落に36戸の人々が仲良く暮らしています。

地区の脇を作沢川が流れ、秋には金色の田んぼ、真っ赤に色づいたりんご畑、山の恵みがいっぱいの雑木林とたくさんさんの自然に囲まれています。

地区の8割が専業農家で、素晴らしいりんごを作ろうと皆で努力しています。また、共同作業においても協力的で、いざという時は一致団結します。

当地区の楽しみの一つに春のさなぶりがあります。田植の後、老いも若きも酒を酌み交わし、作業の反省や今後の目標など様々な話題が飛び出し、親睦を深めています。また、地区内には朝日がまぶしい程良くあたるので、春の雪解けが早く、相馬村の花「福寿草」や「水仙」が一足先に咲き乱れ、他の地区の人々にうらやましがられています。



地区代表 大助地区会長
蝦名重利

- ◆人口／161人（うち男性80人・女性81人）
- ◆世帯数／37世帯
- ◆主な行事／さなぶり（5月末日）

※平成16年4月1日現在



地区が育んだ子どもたち



作沢川の溪流



大助橋からの紅葉



大助公民館前にて(平成16年8月4日)



みんなでつかんだ栄光
平成15年村民体育祭Bブロック優勝



平成16年度村民体育祭での英姿



菅江真澄も紀行文に著している岩谷の不動尊

藍内地区



伝統文化を守り支え合ってきた証

津軽の母なる岩木川を東に、相馬川を6キロ山間に更に2キロ、イワナ・ヤマメ・カジカ鳴く溪流に添って、山水画の如く現在27戸のわび住まいが点在する。集落をつなぐ全線2車線。幽谷の道を更に辿れば、県境越えて秋田大館へ直通。かつては、この道を膨大な国有林材が薪炭、また用材として馬から車に乗り変わり、町や村をうるおした往昔を偲ぶ人も今は少ない。

今日この道を、地域住民の積年の願いだつた路線バス藍内線が、多くの人々の力添えによつて実現され、その利便性また安堵感は計り知れない文化の革命である。これとて今、行財政改革の波にさらわれようとしている。がしかし、雪5尺のこの地を終の住家として定めた人々には、他の誇れる事として一つもないが、この地には、今の助け合いも、ほのぼのも、またふれあい交流も。とうの昔から一つの家族として、親から子へ伝統文化を守り支え合ってきた証がある。私もまた、その中の一人として多くのの人々に感謝しながら共に暮らしていきたい。



地区代表 藍内地区会長
福田 光正

- ◆人口／81人（うち男性38人・女性43人）
- ◆世帯数／28世帯
- ◆主な行事／神社祭り（5月25日～5月28日頃）

※平成16年4月1日現在



藍内地区から眺める晩秋の岩木山



昭和29年建築入母屋式の民家



秋田県田代町と繋がる峰越林道への入口



藍内地区公民館前にて(平成16年7月25日)



藍内地区を縫うように流れる相馬川



生活用に沢水を利用



大山祇神社

沢田地区



「ろうそくまつり」を守り続けたい

この先にむけて、統合合併に伴い、先行不透明ではあるけれども、我々住民としては、毎年旧暦の1月15日前夜祭、1月16日大祭の「ろうそくまつり」を絶対に守っていきたいと思います。

戸数が最盛期の約半分以下にまで減少しましたが、住めば都、山と谷間に囲まれているけれども道路も良く、これといつて格別困ることなく暮らしやすい土地だと思っています。

沢田地区は、今から800年ほど前に平家の落人が戦に敗れ、隠れ住んだ土地だと聞かされております。我が地区は現在、少子高齢化に伴い、人口も急激に減り、戸数も12軒と小さな地区になりました。昭和25年頃は、終戦と共に引揚者で、約33戸の大変な賑やかさでしたが、村の中で最も耕作農地が少ないために、年々村を去って行く人が多くなりました。また、昭和53年頃から相馬ダムが着工され屏風岩から上流の水田等は水没し、住民の多数はほとんど弘前方面に散って行きました。



地区代表 沢田地区会長
大澤 昭夫

- ◆人口／40人（うち男性17人・女性23人）
- ◆世帯数／13世帯
- ◆主な行事／前夜祭（旧暦1月15日）、ろうそくまつり大祭（旧暦1月16日）

※平成16年4月1日現在



ろうそくまつり大祭の神明宮



毎年たくさんの人が訪れる村営キャンプ場



県内で6番目の規模を誇る相馬ダム



村民体育祭にて(平成16年8月1日)



作沢川上流に位置する屏風岩



かまぐらの中での手づくり炭俵の販売



昭和57年から村の行事として開催されるようになった「ろうそくまつり」



青森県相馬会47年のあゆみ

写真提供：東奥日報社

住み慣れた故郷を離れ

戦後58年、日本経済は世界に類のないスピードで成長を続け、世界のトップを躍進し続けています。

この経済成長の原動力の一角を担ったのが、当時「金の卵」と称されて集団就職をしてきた人達でした。昭和29年、全国で始まった就職列車に我が相馬村からも、幾人かの人が乗っていました。

住み慣れた故郷を離れて、これから始める都会生活への期待と不安が入り混じった、複雑な気持ちを胸いっぱい青森から10数時間列車に揺られながら上京しました。

つらい毎日に故郷を想い…

職場は、朝から晩まで油まみれの仕事で残業に続く残業の連続でした。休日とはいえずと、月に2日くらいが当り前といった状態でした。仕事場と寮を往復する毎日で、誰かと一緒にどこか遊びに行くなどできる状態ではありませんでした。周りの人に気楽に話しかけることも、なんとなく気後れして、喉元まで出かかった言葉が引っ込んでしまいます。このような毎日で、ホームシックにならな



い方がむしろ不思議なくらいです。本当につらい毎日が続きました。

後輩への思いを胸に「相中会」発足

これから毎年、故郷相馬村から何人かの後輩が東京生活を夢見て上京してきます。その人たちに、これまで自分達が経験したことと同じ思いをさせてはならない、良き話し相手となつて、少しでも心のわだかまりを解いてやる必要がある、といった認識から昭和32年に成田幸義氏ら7、8人が「相中会」を発足させました。早速皆で協力し、卒業生に会い悩み事などの相談にのつてあげる活動を始め、時には職場訪問へも行ったりして大変に好評を得ました。この活動によって「不安

を抱えたまま職場から挫折・離脱する人」は、相中会には一人も出ませんでした。この活動が実を結び、翌年以降上京してくる後輩たちは、自ら進んで連絡して入会を希望してくるようになりました。一時は会員数が170名にも上ったことがあります。会の活動としては、春には新しく卒業してくる後輩の歓迎会、新年には総会兼新年会、夏、秋には東京近郊の名勝地へのハイキング、そしてボウリング大会など数々の行事を開催して親睦を図ってきました。参加者は皆、目がイキイキしてとても楽しそうにはしゃいでいたのが印象的です。それぞれ



の行事の別れ際に交わす「次は〇〇でまた会おうな」という声が、名残惜しそうに聞こえていました。

励みとなった「相中会」

このように、相馬会が果たしてきた役割は、非常に重要なことであり、その成果は計り知れないほど深いものがあります。会員の皆さんに、あのころを思い出してと聞くと「相馬会がなかったら、今頃は……」「皆に会えることが励みで毎日の仕事もがんばれた……」といった意見がほとんどでした。

「相中会」から「相馬会」へ

昭和36年に静岡県清水市へ7名が就職することになり、前年に就職している2名とあわせ9名を擁して「相中会清水支部」を清水電業社様のご協力を得て、設立することができました。

また、昭和37年には、当時舟打鉦山中学校卒業生も同じように会合を持っていることを知り、同じ相馬村出

身者として一つにまとまって活動することを提案し、「相中会」「舟中会」を統合して「相馬会」と改称し初代会長には、成田幸義氏を推していくこととなりました。

記念となった両親との再会

相馬会も精力的な活動をしていく中で記念すべき大きなイベントが二つあります。その中の一つは、昭和42年に迎えた10周年記念行事として「故郷の両親を東京へ招待しよう」というものです。故郷相馬

から総勢56人の両親が上野駅に降り立ちました。当時このような行事は珍しく、NHKその他の報道関係の知ることとなりました。ニュース等話題性の報道で人気を博していた「NHKスタジオ102」へ出演することができました。新聞では読売、朝日等大々的に報道されました。



二つには、昭和58年に迎えた25周年記念であり「今度は私達会員が全員で故郷相馬村へ行こう」の企画を立てました。お盆休みを利用して、会員および家族の総勢40人でバスを1台借切つて上野

を出発しました。村では、関係者や会員の両親を招いて「相馬会の夕べ」と題して盛大なセレモニーを開催してくださいました。会員の中には、45年ぶりに帰省するものもいて、久しぶりに両親に顔を見ることができ、それぞれが十分に親孝行できたと思います。

流行となった「同郷出身の会」

相馬会は、全国的に先陣を切る形で活動を始めましたが、このようなサークルは、東京オリンピックを前後して「〇〇の会」が大流行しました。中でも大

規模で全国的に名を馳せたものは「若い根っここの会」で、テレビ・新聞等で毎日のように報道されていたと記憶しています。このような活発なサークルも昭和51年、就職列車が廃止されることになってからの活動は、徐々に薄れていく運命を辿ることになりました。

会員の心に生き続ける「そうま」

相馬会の会員も、発足当時は二十歳前の若者が20年、30年経つとそれぞれにしっかりとした生活基盤を築き上げていて、今では家庭が中心となっています。近年は大学進学が標準となってきたとおりです。新しく就職してもあらゆる情報が氾濫してい



員には「そうま」は生き続けることでしよう。

また、現在、村報「そうま」を会員の皆さんに毎月配送しております。これについても会員の皆さんから「止めることなく続けていつて欲しい」「これが無くなると心に穴が開いたような気になる」といった意見が集中しています。今後も、村のご協力のもとに出来る限り、続けていきたいと考えております。

最後に「相馬会」の運営に関し、歴代村長をはじめ村の関係者から絶大なるご支援・ご鞭撻を賜りまして、誠にありがとうございます。心から感謝申し上げます。また、青森県人会をはじめとして、関係者の皆様にご指導・ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。書面をお借りいたしまして御礼申し上げます。

(三浦幸夫)

て、その時々に必要な情報は簡単に入手することができる時代です。そういった意味では「会に所属する」ことが若者の考え方とは合わないようです。相馬会の現状の活動としては、毎年2月の第2日曜日に「みんなの心の駅」上野で新年会を開くことを誓い合っています。この新年会には、毎年村長がご出席され、村の近況を話して下さいます。会員の中には、何年も故郷に帰っていない人もおり、このお話をひたすら楽しみにしています。最近では政府の号令の元、平成の大合併と称し津軽地区11市町村等の合併話が大きな話題でした。例えば、弘前市になったら相馬はどうなるのかが一番気にかかるのであります。「相馬」という名前が、表に出ることが無くなったとしても、我々相馬会々

青森県相馬会
47年のあゆみ

村民がとらえた相馬村の姿

村民アルバム

相馬村に暮らす人々がふるさとへの思いを様々なかたちで表現しました。
この村に注ぐ光、渡る風を心に刻み込んで未来へ遺す心象風景です。

ふるさとへの思いを一瞬に込め



「相馬地区の桜」
撮影：沢田正四



「藍内玄藩沢の流れ」
撮影：沢田正四



「りんご園のふくろう(湯口)」
撮影：沢田正四



「藍内玄藩沢の滝」
撮影：沢田正四



「いちじょうの木」
撮影：三上淳



「一服」
撮影：成田馨



「初冬の岩木山を臨む」
撮影：宮川文雄

ふるさとへの思いを水彩に託し

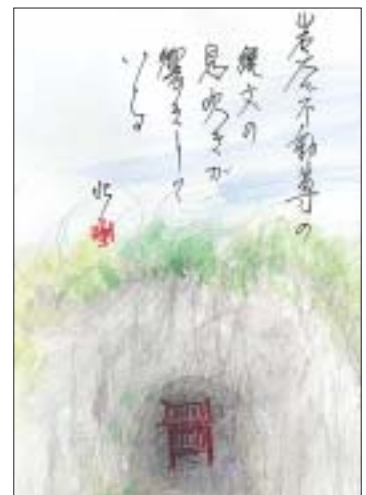
絵：棟方昭三



「上皇宮」



「神明宮」



「岩谷不動尊」

未来の主役たちが描くふるさとへの思い



「ロマンビアはたのしいよ」 相馬小2年 澤田霧子



「いもうととおちばで あそんだよ」 相馬小1年 太田彩雅



「家のまどから見た風景」 相馬小3年 蝦名郁美



「私の学校 相馬小学校」 相馬小3年 石田有紀



「すばる公園」 相馬小4年 村上大顕



「りっぱにそびえたつ岩木山」 相馬小3年 田中美帆



「見上げるほど長いいけよう台」
相馬小5年 大高美咲



「相馬村一番の相馬小」 相馬小4年 澤田ゆうき



「私の好きな天文台」 相馬小6年 澤田葉奈



「私の好きな北斗七星バンガロー」
相馬小6年 成田圭

ふるさとへの思いを17文字にこめて

中村とき

移り来て人みなやさし星の里

【選評】青森市から移住、相馬村の温かい人情に触れての感懐句。

福沢ヒサエ

落武者に心通うやロウソク祭

【選評】沢田に住み、殊に有名なロウソク祭り、落武者の霊安かれと。

沢田ツサ

木洩れ陽のメノコの墓や石幾重

【選評】田村麻呂伝説の由来とか。下五の一語は重い。

成田とみえ

星に酔ひりんごに酔ひし村の衆

【選評】天文台鏡に見る満天の星、眼下一面のりんごに酔う大きな句。

山内せち

秋近したたずむ秘境の相馬ダム

【選評】このダムは漸く完成した。都塵の及ばぬ秘境の感嘆句。



山内寿美子

天文台梅雨の晴れ間にのぞきみる

【選評】天文台鏡で覗きみる幸せ。なんとロマンな一刻である。

棟方啓子

花りんごこの村終の栖かとし

【選評】これからの一生を安住の地として昂に。(弘前から移住六年目)

小野ヨシ

ふくいくと六月の風よロマントピア

【選評】星と森のロマントピア。「六月の風よ」ときれいに詠まれた。(弘前から移住)

清野イマ

リング好き生まれ死ぬまで相馬村

【選評】ずばり心の中を詠んだ。この中七には凛とした不動のものがある。

長内昭子

馬じるし林檎村から旅をする

【選評】馬じるしのりんごが、全国へ旅をするとの林檎への愛情句。



STARS ON MANY AMENITIES

永遠の星に見守られて、新たな旅立ちへ。

あとがき

相馬村に生き続ける人々—その笑顔。

村であれ、町であれ、その主役は言うまでもなく「人」です。

また、これまでの村の歴史を作ってきたのも「人」であり、
その努力や苦勞は、時を経た今も遺伝子として体の中に内包されているに違いありません。
そうした意味で現村民の笑顔は、過去の多くの人々の苦勞の集積・結果であると言えます。

Stars On Many Amenities —良い生活環境の上に星は輝く—
永遠である星々に思いをこめ、いま新たな旅立ちに向かいたいと思います。

最後に、記念誌の編集にあたり、村民の皆様、相馬会の方々、
取材や写真撮影にご協力くださった方々に心より感謝申し上げます。

どうもありがとうございました。

編集者一同



【参考文献：資料】

相馬村誌（相馬村 昭和57年3月発行）

要覧そうま（1976年版）

相馬村勢要覧（1991年版）

相馬村勢要覧（1999年版）

相馬村政施行百周年記念誌

JA相馬村30周年誌

JA相馬村40周年誌

舟打鉾山の興亡（相馬村教育委員会）

相馬小学校百年史

相馬小学校創立二十周年記念誌

相馬中学校五十周年の歩み

発 行 / 青森県相馬村

発 行 日 / 平成17年3月31日

企画・編集 / 相馬村総務財政課

制 作 / RAB開発（株）



SOMA

Stars On Many Amenities

相馬村閉村記念誌 発行／相馬村

〒036-1592 青森県中津軽郡相馬村大字五所字野沢41-1
Tel 0172-84-2111 Fax 0172-84-3501

